

43

セント・バーソロミュー病院の創設と発展

柳澤 波香

青山学院大学兼任講師／津田塾大学非常勤講師

セント・バーソロミュー病院 (St Bartholomew's Hospital) は現存する英国最古の病院である。1123年、アウグストゥス派の修道士ラヒア (Rahere) によりロンドンのスミスフィールドに創設された。爾來、ロンドン市民の健康を十世紀にわたり守り、支え、国内外の医療をリードし続けている。パーツ (Barts) の愛称で親しまれるこの病院は、世界最高水準の医療機関や医育機関であると共に、ロンドンの歴史の証人であり、その創設の精神は現代医療の中にも脈々と受け継がれている。

創設者ラヒアは、修道士となる前は国王ヘンリー一世の宮廷道化師であったが、宮廷の服喪により1120年、巡礼に赴いた。巡礼地でマラリアに罹り重篤状態に陥ったとき、聖バーソロミューの啓示を受け、ロンドンの荒地に疾病貧民のための病院を建てることを決意した。アウグストゥス会を中心に、国王や大司教らが支援を行い、一般市民も資金や建築資材、家具や什器を提供し、建設作業にもすすんで参加した。ラヒアは初代院長を務め、時には奇術を披露し、運営資金を得たと伝えられる。創設初期のバーソロミュー病院では中世の他の病院と同様に、疾病貧民の救済、巡礼者への宿泊・食事の提供などが修道士、修道女により行われていた。

16世紀前半、病院は国王ヘンリー八世が行った宗教改革により転換期を迎えた。カトリック教会とその付属施設であった病院はすべて弾圧、閉鎖された。1538年、セント・バーソロミュー病院も土地を接収され、閉院した。閉院により疾病貧民が増加したため、事態を憂慮したロンドン市参事会は国王に病院再開を嘆願した。1547年、ヘンリー八世は病院の土地を返還し、運営をロンドン市に委ねて基金を与え、勅許状により病院再開を許可した。ヘンリー八世から病院再開を許可されたのはセント・バーソロミュー病院のみであった。

16世紀半ば以降、セント・バーソロミュー病院では内科医、外科医が定期的に勤務し、診療を行うようになり、病院医療の原型が形成され始めた。院内薬局も設置された。シェイクスピア作『ヴェニスの商人』のシャイロックのモデルと言われるロベス医師は初代内科医であり、ハーヴェイは第3代内科医である。病院は各時代を通じて最先端医療を行い、外科の分野でもポット、アバネシーら医学史上に名を残す有名医師が病院医師を代々務め、数々の業績があげられた。病院医師であることは名医の証と考えられ、医師は富裕階級の侍医を務めつつ、病院では無償で診療にあたった。症例が多く集まり、有名医師が勤務したため、セント・バーソロミュー病院は医学教育の場ともなった。私的な講習が次々に開かれ、医育機関、教育病院としての礎が築かれた。

病院の運営にはロンドン市民有志が携わっていたが、画家ホガースら芸術家も病院の発展に尽力した。ホガースは病院創設の精神、医療の神髄を表象する絵画を制作し寄贈した。患者をモデルに外見症状を克明に描写した絵画は医学テキストの役割をも果たした。

1990年代初め、英国保守党政権は財政赤字削減を目的とする医療行政改革の一環として、セント・バーソロミュー病院の閉鎖を示唆したが、病院スタッフはじめロンドン市民の大多数は断固として反対した。病院は、ヘンリー八世の勅許状を政府に呈示し、「病院の土地は下賜されたものであり、たとえ政府が閉院を命じても、病院の門戸を病者に対して閉ざすことは決してない」と宣言した。その後政権は交代し、病院は閉鎖を免れた。1994年、ロイヤル・ロンドン病院との組織運営上の統合が行なわれ、Bart and the London NHS Trustが形成された。現在、セント・バーソロミュー病院は歴史的建造物を大切に保存しつつ、新棟増築を進行中であり、病院医療の先駆的存在としての位置は変わることなく続いている。